

令和元年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	泉佐野 市議会
報告者	議長 辻中 隆 副議長 欠席 事務局長 射手矢 光雄
視察日時	令和元年7月25日(木) 13時30分～15時30分
視察先	茨城県 常総市
概 要	<p>平成27年9月関東・東北豪雨災害について</p> <p>常総市は、平成27年9月の関東・東北豪雨に際し、甚大な被害を被った。これを受け、被害の教訓を今後の施策に生かすため、平成28年6月に『平成27年度常総市鬼怒川水害対応に関する検証報告書』を策定した。策定の主体となったのは、「常総市水害対策検証委員会」である。同委員会は計8回の会合と1回の作業会合を持った。また、同委員会によるヒアリングは、計77回実施、対象者数は延べ177人、ヒアリングに要した時間は通算99時間に及んだ。策定内容を踏まえ、ハード面とソフト面の双方で見直しを行った。ハード面では、停電対策として、庁舎1階にあった蓄電池は上階に上げるとともに、地上にあった非常用電源施設は、高さ2mのコンクリート壁で囲んだほか、将来を担う若い世代に引き継ぐことを目的に、想定される浸水深の普及を図り、被害を最小限にとどめるため、市内主要道路等の一部電柱に、想定される浸水の深さの最大値を看板やテープで標示(約350カ所)した。また、要配慮者対策・外国人対策・市外からの来訪者対策として、各種の災害情報システムを整備した。一方、ソフト面では、市役所組織の機構改革を実施(防災組織の充実)したほか、防災意識の向上を図るため、被害のあった9月10日を「常総市防災の日」に制定。また、関係機関の連携による常総市「タイムライン」の策定。毎年市内小中学校による一斉防災教育・訓練の実施。防災士認定登録料への補助金を交付することによる防災士育成の促進。「防災ガイドブック」の全戸配布。このほか、大規模水害を想定し、鬼怒川・小貝川流域の13市町による相互協定を締結している。</p>
所 見	<p>平成27年9月関東・東北豪雨災害について</p> <p>今回の視察は、常総市における「豪雨災害」の被害状況やそれへの対応、その後ハード・ソフトの両面における改善策についての教授であったが、本市は、一級河川の鬼怒川など、大きな河川を有しないが、二級河川の樫井川を有する。ただ、樫井川は以前に河川拡幅工事や護岸工事の整備を行っており、常総市と同じような被害は想定しがたい。また、常総市には山はないが、本市にはある。さらに、本市は、大阪湾に隣接するとともに、隣町に原子炉施設を有している。このため、津波や原子力災害等、本市独特の被害が想定される。このように、想定される被害は異なるものの、浸水対策の実施や職員として元自衛官を起用(本市は、既に採用している。)していることや、「防災の日」の制定、市内小中学校の一斉防災教育・訓練の実施、自主防災組織の取り組み、防災士育成の促進、防災危機管理課では若手職員により、毎日気象情報のブリーフィングを行うなど、あらゆる面で示唆に富んだ内容であった。</p>

令和元年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	泉佐野 市議会
報告者	議長 辻中 隆 副議長 欠席 事務局長 射手矢 光雄
視察日時	令和元年7月26日(金) 9時30分～11時30分
視察先	千葉県 松戸市
概 要	<p>子育て支援事業について</p> <p>松戸市は、「家庭、地域、事業者、行政が協力し、社会全体で子どもの成長を支えることは、将来に向けての大切な投資である。」という市長の方針のもと、『子育てにやさしい街』づくりを進めている。また、子育て関連予算額も右肩上がりである。具体的には、妊婦・出産直後の支援策として、保健師・助産師、社会福祉士の専門職が常駐し、様々な知見から包括的に相談対応を図る「親子すこやかセンター」を開設していること。これは、全国的にもめずらしいとのこと。このほか、乳児家庭全戸訪問（赤ちゃん訪問）時における保健師・助産師からの絵本のプレゼント。乳幼児向けの遊び場を市内に25か所整備。市内全23駅の駅前や駅ナカへの小規模保育施設の整備。松戸駅や新松戸駅での「送迎保育ステーション」の運営。『松戸手当』の支給。新卒保育士への家賃補助や保育士宿舎の借り上げ。これらによる4年連続『待機児童ゼロ』の達成。5歳児から中3まで10年間の『まつど英語』の実施。24時間安心できる小児医療体制の充実。電子母子手帳の導入。一般市民が主人公となる子育てPR動画「世界一の感謝状」の制作。三世代近居・同居の推進。以上、数々の施策により、日経DUALが発表する「共働き子育てしやすい街のランキング」において、2017年は全国で1位に輝くなど、ここ数年高順位である。</p>
所 見	<p>子育て支援事業について</p> <p>松戸市は、定住人口を増加させる街のお手本ではないか？と考える。反省点があるとすれば、今回の視察は、各施策のヒアリングがメインであったため、例えば、教育委員会とは定期的な連携会議を開いているようだが、その具体的な内容のほか、各種施策に潜んでいる問題点や課題を聞き出すことができなかったことである。一方、各施策が充実しているのは、単に施策数が多いのではなく、それぞれの施策が妊娠・出産から子育てまで切れ目のない支援策として、有機的に連携しているように見え、福祉や教育、医療分野における連携強化の必要性を改めて感じた。また、視察の受入れは、4課（子ども政策課、子育て支援課、子どもわかもの課、保育課）で、9名の担当者に対応していただいた。このような、きめ細かな姿勢は、本市でも他市から視察を受入れる際、参考にすべきと感じた。</p>

令和元年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	泉佐野 市議会
報告者	議長 辻中 隆 副議長 欠席 事務局長 射手矢 光雄
視察日時	令和元年7月26日(金) 13時30分～15時00分
視察先	東京臨海広域防災公園
概要	<p>(施設見学) そなエリア東京</p> <p>面積：13.2(国営公園6.7ha、都立公園6.5ha)ha。本公園は、阪神・淡路大震災による甚大な被害を踏まえ、関係省庁や関係都県市による「東京湾臨海部基幹的広域防災拠点」の整備決定を受け、平成18年3月に施設建設着手、平成20年6月から運用が開始された。因みに、同施設は、平時はバーベキュー広場など、広く都民等に開かれた空間として活用されている。また、公園内の本部棟は、普段は防災体験・学習や各種の訓練が行われている。一方、同公園は、災害発生時は、隣に「がん研有明病院」や一度に7基のヘリコプターが駐機できるヘリポートが整備されており、災害応急対策を行う拠点として位置づけられている。</p>
所見	<p>(施設見学) そなエリア東京</p> <p>本部棟では、防災学習を体験した。体験内容は、タブレット端末を使う「防災クイズ」への挑戦や携帯端末のカメラ機能による危険個所の確認等であった。タブレット端末は、小学校低学年の子どもでも、楽しみながら学習することができ、工夫を凝らしていると思った。また、入館者数は、平成22年度から毎年伸びており、平成30年度は324,405人であった。このうち、海外からの視察者数は、約7,000人(約250団体)であった。今回は、十分な時間を確保することができなかったが、施設内容が充実しているため、機会があれば、ゆっくり時間をかけて防災体験学習を受けたいと感じた。</p>